

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

本年4月19日に、小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、7月末に文部科学省国立教育政策研究所から出された報告書を参考にし、いなべ市の児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等の分析結果や今後の取組として以下のとおりまとめました。

なお、「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教科指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施されています。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することが目的とされています。しかしながら、調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面です。このことを十分考慮し、今後のいなべ市の教育の一層の充実を図ってまいります。

I いなべ市における教科に関する調査結果の分析

1 小学校 国語

【よくできていた問題】

1 一 本市の正答率：83.3%（全国の正答率：85.5%）

<問題の概要>

- ・問題文【話し合いの様子の一部】の中で、指定箇所（一ア）のように谷原さんが発言した理由を4つの選択肢の中から1つ選ぶ問題。

（正答 2）

<出題の趣旨>

- ・話し言葉と書き言葉との違いを理解しているかどうかをみる。

1 三 本市の正答率：81.6%（全国の正答率：84.7%）

<問題の概要>

- ・問題文【話し合いの様子の一部】の中で、中村さんが指定箇所のように前田さんに質問した理由を4つの選択肢の中から1つ選ぶ問題。

（正答 3）

<出題の趣旨>

- ・必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中から心を捉えることができるかどうかをみる。

一 「話し合いの様子の一部」で、谷原さんが、――部アのように発言した理由として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 意味を説明することで、同じ音でも複数の漢字があることを知ってもらうため。
- 2 意味を説明することで、同じ音で異なる意味をもつ言葉と区別するため。
- 3 くり返し伝えることで、相手の考えを引き出すため。
- 4 くり返し伝えることで、言葉のリズムをよくするため。

三 「話し合いの様子の一部」で、中村さんが前田さんの発言に対して、――部ウのように質問し、知りたかったことはどのようなことですか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 ベンキをぬり直すことが、公園の遊具で遊べることにつながる理由
- 2 ベンキをぬり直すことが、自分たちではできないことにつながる理由
- 3 ベンキをぬり直すことが、公園をきれいにすることにつながる理由
- 4 ベンキをぬり直すことが、ごみのない公園になることにつながる理由

3 四 本市の正答率：81.4%（全国の正答率：77.9%）

<問題の概要>

- ・問題文【文章2】に関連して、島田さんが何に着目して文章を書き直したのか、4つの選択肢の中から1つ選ぶ問題。（正答 4）

1	とめやはねの書き方
2	文字の大きさ
3	文字と文字との間
4	行の中心

四 島谷さんは、「六年生としてがんばりたいこと」を手紙で伝えたいと思い、(一)を書きました。そして、相手の読みやすさを考えて、(二)のように書き直しました。島谷さんが書き直すときに気を付けた内容として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

(一)

うららかな春の日が続いています。
いかがお過ごしてしょうか。
わたしは今年、六年生としてがんばりたいことがあります。

(二)

うららかな春の日が続いています。
いかがお過ごしてしょうか。
わたしは今年、六年生としてがんばりたいことがあります。

(三)

うららかな春の日が続いています。
いかがお過ごしてしょうか。
わたしは今年、六年生としてがんばりたいことがあります。

<出題の趣旨>

- ・漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことができるかどうかをみる。

【課題となった問題】

1 四 本市の正答率：41.4%（全国の正答率：47.7%）

<問題の概要>

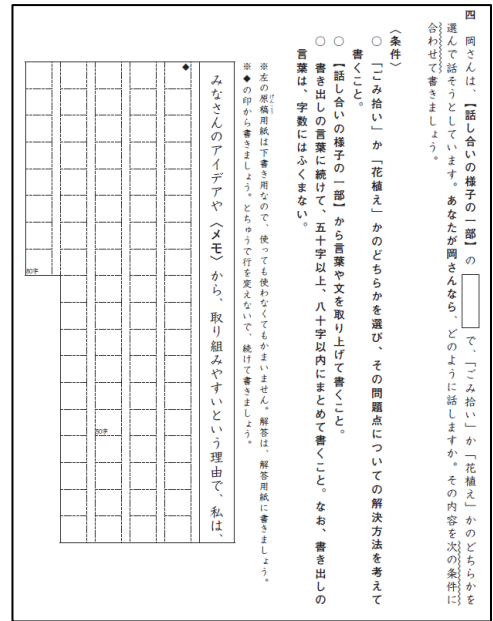
- ・【話し合いの様子の一部】の中で、自分が岡さんならどう話すかを、3つの条件を満たしながら書く問題
(正答例)
- ・ごみ拾いがよいと思います。続けることがむずかしい点については、当番を決めてごみを拾ったり、地いきの方にも呼びかけて協力してもらったりするとよいと思います。

<出題の趣旨>

- ・互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

<解答状況>

- ・3つの条件とは、以下のとおりである。
条件1…「結論」と「問題に対する解決方法」の記述
条件2…本文引用
条件3…字数制限
- ・誤答で最も割合が高いのは、条件1のうち、「問題に対する解決方法」の記述を満たさないもので、43.8%だった。
(誤答例)「ゴミ拾いに賛成です。続けるのは難しいですがごみを拾う機会にもなると思ったのでごみ拾いがよいと思います。」
「花植えが良いと思いました。理由は、花を植えることは私たちもできるし、はなやかに
なり良いと思ったからです。」



3 二 本市の正答率：40.5%（全国の正答率：37.7%）

＜問題の概要＞

- ・自分が島崎さんなら、書き直した【文章2】にどのようなよさがあるかを、3つの条件を満たして書く問題。

（正答例）

- ・わたしの文章のよさは、今年頑張りたいことを伝えるために、南さんの話や、さいばい委員の活動で反省したことを書いたり、運動委員として進めたい新たな活動を、最後の段落に具体的に書いたりしたところです。

＜出題の趣旨＞

- ・文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるかどうかをみる。

＜解答状況＞

◆3つの条件とは、以下のとおりである。

条件1…「聞いたこと・経験したこと（a）」か「がんばりの具体例（b）」か
「ab以外（c）」の記述

条件2…本文引用

条件3…字数制限

- ・誤答で最も割合が高いのは、条件2は満たしているが、条件1は満たさないもので33.4%だった。
（誤答例）「運動が苦手な人でも親しむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしようかいして、みんなで遊べたら良いなど私は思いました。」

【課題等 ○…できている点 ●…課題のある点】

- 話し言葉と書き言葉との違いを理解することはできている。
- 必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容の中心を捉えることはできている。
- 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことはできている。
- 互いの立場や意図を明確にしながらかつ計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに課題がある。
- 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることに課題がある。

【課題となった内容に対する今後の取組み方針】

◇互いの立場を明確にしながらかつ計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができるようにする。

- ・「考えをまとめる」とは、話し合いを通して様々な視点から検討し、互いの意見の共通点や相違点、利点や問題点等をまとめることである。話し合った後で考えをまとめる際には、様々な視点から検討したことを踏まえて、自分の考えをまとめることが求められる。異なる意見を自分の考えに生かせるように、例えば「～という意見もあったが」、「～という考えもあるけれど」などの表現を用いられるようにすることが効果的である。

本設問では、「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選び、その問題点についての解決方法を具体的に考えていくことが求められる。話し合いの目的を意識しながら、自分のこととして考えていくことが重要である。

- ・指導にあたっては、話し合いを始める際に話し合いの目的や方向性を検討すること、話し合いの展開や内容を踏まえて互いの意見を整理すること、様々な視点から検討して自分の考えをまとめることなどが重要である。

◇文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるようにする。

- ・学習指導要領「話すこと」に関する指導事項「共有」の定着を図るためには、互いの文章に対する感想や意見を伝え合うことを通して、自分の文章のよいところを見付けることができるように指導することが重要である。自分の文章のよいところとは、第1学年及び第2学年では、「内容や記述などに見られる具体的なよさ」、第3学年及び第4学年では、「書こうとしたことの明確さ」、第5学年及び第6学年では「文章全体の構成や展開の明確さ」などである。本設問では、「六年生としてがんばりたいこと」を伝えることが目的であり、【伝え合いの様子の一部】において、島谷さんは、「私のがんばろうとしていることが伝わるかな」と川口さんに聞いている。また、【伝え合いの様子の一部】の川口さんのように、「最後の段落がいいね。なぜかという、～」というように、よいところを具体的に言葉で表している。

- ・指導にあたっては、伝え合う経験を積み重ねていくことで、自分の文章のよいところを見付けたり、それを言葉で表したりする指導が大切である。本設問のように、自分が書いた目的や意図を相手に伝えたり、感想や意見を具体的に伝え合ったりすることができるように指導すると効果的である。さらに、互いの文章を読み合うことで、経験の取り上げ方や言葉の選び方、書き方の工夫を認め合い、自分の表現に生かそうとすることも大切である。自分の文章のよいところを見付ける経験を重ねること重要である。

2 小学校 算数

【よくできていた問題】

1 (1) 本市の正答率：91.5% (全国の正答率：92.4%)

<問題の概要>

- ・ 1050×4 を計算する。(正答 4200)

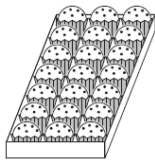
<出題の趣旨>

- ・ 被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができるかどうかをみる。

1 (3) 本市の正答率：74.0% (全国の正答率：76.0%)

<問題の概要>

- ・ カップケーキ7個分の値段を、「 $1470 \div 3$ 」で、求められる理由について、【ゆうとさんの説明】をもとに説明する。



Bセット (21個入り)
1470円



ゆうと

【ゆうとさんの説明】

1列のカップケーキが7個ずつ2列あります。2列の値段が1050円なので、1050を2等分すれば1列に並んでいるカップケーキ7個分の値段を求めることができます。

<出題の趣旨>

- ・ 示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる。

2 (1) 本市の正答率：79.8% (全国の正答率：71.1%)

<問題の概要>

- ・ オレンジの果汁が25%ふくまれている飲み物の、飲み物の量をもとにしたときの、果汁の割合を分数で表す。(正答 $\frac{1}{4}$)

<出題の趣旨>

- ・ 百分率で表された割合を分数で表すことができるかどうかをみる。

3 (1) 本市の正答率：75.4% (全国の正答率：75.3%)

<問題の概要>

- ・ 表をもとに、しりとりに入った票の数値を求める問題。(正答 6)

希望する遊び (お楽しみ会)

遊び	ビンゴ	クイズ	宝探し	しりとり	合計
票の数 (票)	17	13	12	ア	48

<出題の趣旨>

- ・ 表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができるかどうかをみる。

4 (2) 本市の正答率：83.1%（全国の正答率：83.2%）

<問題の概要>

- ・縦3 cm，横5 cmの長方形をかくためのプログラムの空欄ア，イに入る数を求める。（正答 ア3，イ5）

<出題の趣旨>

- ・正三角形の意味や性質を基に，回転の大きさとしての角の大きさに着目し，正三角形の構成の仕方について考察し，言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる。

長方形のプログラム



【課題となった問題】

1 (4) 本市の正答率：30.9%（全国の正答率：34.8%）

<問題の概要>

- ・個入り 85 円のカップケーキ 21 個分の値段が 1470 円より必ず高くなることを見積もりによって確かめる問題（正答 ア）

<出題の趣旨>

- ・示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できるかどうかをみる。

<解答の状況>

- ・「ウ 85 を大きく見て 90, 21 を小さく見て 20 として計算します」と答えていた割合が、全体の 5 割であった。「85」を四捨五入して「90」と考えてしまったと思われるが、「1470 円より必ず高くなることを見積もりによって確かめる」という目的に合った数の処理が適切に行えていない。

2 (3) 本市の正答率：15.8%（全国の正答率：21.4%）

<問題の概要>

- ・数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかどうか問う問題。（正答 3）

<出題の趣旨>

- ・示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかどうかをみる。

<解答の状況>

- ・選択肢 1 を選んでいる児童の割合が 7 割近くいた。飲み物の量が 2 分の 1 になると、果汁の割合も 2 分の 1 になると答えており、割合に対して正しい理解がされていない。

2 (4) 本市の正答率：48.6%（全国の正答率：48.0%）

<問題の概要>

- ・180mL が 30mL の何倍かをどのように求めたかわかるようにして、果汁の量が 180mL のときの飲み物の量を求める問題
（正答 600mL）

下の表のように、果汁の量が□倍になると、それにもなって飲み物の量も□倍になるのではないのでしょうか。このことを使えば、果汁の量が 180 mL のときの飲み物の量を求めることができますね。

果汁の量 (mL)	30	60	90	...	180
飲み物の量 (mL)	100	200	300	...	?

（注：表の両行の間には、30から180への上向き矢印と100から?への上向き矢印があり、それぞれ「□倍」とラベルされています。）

<出題の趣旨>

- ・伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。

<解答状況>

- ・「600mL」と解答できているものの、求め方が正しく記述できていない割合が約 36%あった。

4 (1) 本市の正答率：45.6%（全国の正答率：48.8%）

<問題の概要>

- ・ 1 辺が 5 cm 正三角形をかくプログラミングの間違った命令を訂正する問題。
(正答 左に 120° 回転する)

つくったプログラム

① 5 cm の直線を引く。
↓
② 左に 60° 回転する。
↓
③ 5 cm の直線を引く。
↓
④ 左に 60° 回転する。
↓
⑤ 5 cm の直線を引く。

はなこ

5 cm の直線を引く。
左に 60° 回転する。
2 種類の命令のうち、
どちらかの命令を直すど
かこうとした正三角形が
できますね。

かこうとした正三角形をかくには、どちらの命令を直すといですか。
下の ア と イ から選んで、その記号を書きましょう。また、その選ん
だ命令を、言葉と数を使って、正しい命令に書き直しましょう。

ア 5 cm の直線を引く。
イ 左に 60° 回転する。

<出題の趣旨>

- ・ 正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる。

<解答状況>

- ・ 正しく正三角形を書こうとするとき、直すべき命令が「イ：回転させる命令」であることはわか
ってはいる（反応率は 88.8%）ものの、回転の角度を 60° とした解答が約 25% あった。正三角
形の内角の 60° と回転させる角度 120° との違いについて正しく理解できていないことがわか
る。

【課題等 ○…できている点 ●…課題のある点】

- 被乗数に空欄のある整数の乗法の計算をすることはできている。
- 示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を言葉と数を用いて記述することはできている。
- 百分率で示された割合を分数で表すことはできている。
- 表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当てはまる数を求めることはできている。
- 図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解することはできている。
- 示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察することに課題がある。
- 示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解することに課題がある。
- 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述することに課題がある。
- 正三角形の意味や性質をもとに、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述することに課題がある。

【課題となった内容に対する今後の取組み方針】

◇目的に合った数の処理の仕方を考えることができるようにする。

- ・日常生活において、数の大きさを見積もる必要があるときは、目的に応じて数を大きくみたり小さくみたりして、概算できるようにすることが重要である。その際、概数にする方法である切り上げ、切り捨て、四捨五入を用いて計算し、どの方法が適切であるかを判断できるようにすることが大切である。
- ・指導にあたっては、例えば、本設問を用いて、1個入り85円のカップケーキ21個分の値段と、Bセット1箱分の値段である1470円では、どちらの方が高いかを予想し、確かめる活動が考えられる。確かめる際には、 85×21 を計算し、1個入り85円のカップケーキ21個分の値段を求めて1470円と比較するだけでなく、1470円より必ず高くなることを判断できるようにするためには、 85×21 の85と21を概数にして見積もる際には、両方の数より小さい概数で見積もる必要があることを理解させたい。

◇日常の具体的な場面に対応させながら、割合について理解できるようにする。

- ・日常の具体的な場面に対応させながら、飲み物の量に対する果汁の量の割合が、飲み物の果汁の濃さを表していることを理解することが重要である。その際、飲み物を分けても、果汁の濃さは変わらないという生活経験を想起できるようにすることが大切である。
- ・指導にあたっては、例えば、本設問を用いて、果汁が含まれた飲み物を二つに等しく分けても、果汁の濃さは変わらないという生活経験を想起しながら、果汁の割合は変化しないと判断する活動が考えられる。その際、生活経験を基にした判断と、果汁の割合を計算で求めた結果を関連付けて考えることができるようにすることが大切である。

◇伴って変わる二つの数量の関係に着目し、未知の数量を求めることができるようにする。

- ・伴って変わる二つの数量を見だし、一方の数量に伴って他方の数量がどのように変化するかに着目して、未知の数量を求めることができるようにすることが重要である。その際、表に整理して、二つの数量の関係に着目できるようにすることが大切である。また、二つの数量から割合を求めることができるだけでなく、示された割合になる二つの数量を考えることができるようにすることも大切である。
- ・指導にあたっては、例えば、本設問を用いて、伴って変わる二つの数量のデータを何組か集めて表に整理し、比例の関係を見いだす活動が考えられる。その際、一方の数量のみに着目するのではなく、二つの数量が伴ってどのように変わっているのかに着目し、果汁の量が2倍、3倍、…になると、それに伴って飲み物の量も2倍、3倍、…になっているという比例の関係を捉え、未知の数量を求めることができるようにすることが大切である。

◇図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質、図形の構成の仕方について考察できるようにする。

- ・図形の学習では、図形の意味や性質を基に、辺の長さや角の大きさに着目し、図形の構成の仕方について考察できるようにすることが重要である。
- ・指導にあたっては、例えば、本設問のように、正三角形の意味や性質を基に、コンピュータを用いて正三角形を作図するために、正方形のプログラムを基に作成した正三角形のプログラムについて見直し、改善する活動が考えられる。その際、正三角形を作図できなかった場合には、試行錯誤をしながら、回転する角の大きさを 120° にする必要があることに気付かせ、その理由を説明できるようにすることが大切である。また、コンピュータを用いると、角の大きさを変えるだけですぐに図形が作図できるため、正三角形を作図できた場合でも、それだけで終わるのではなく、回転する角の大きさを 120° にした理由について考えることができるようにすることが大切である。

3 小学校 理科

【よくできていた問題】

1 (1) 本市の正答率：90.4%（全国の正答率：92.9%）

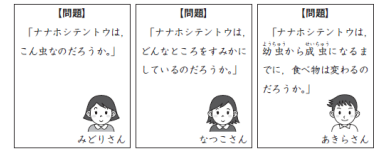
<問題の概要>

- ・見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ。

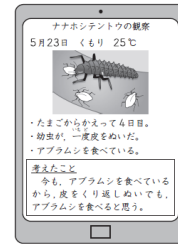
（正答 4）

<出題の趣旨>

- ・問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる。



下の記録は、だれが記録したものと考えられますか。下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。



- 1 ひろしさん
- 2 みどりさん
- 3 なつこさん
- 4 あきらさん

1 (3) 本市の正答率：76.2%（全国の正答率：73.1%）

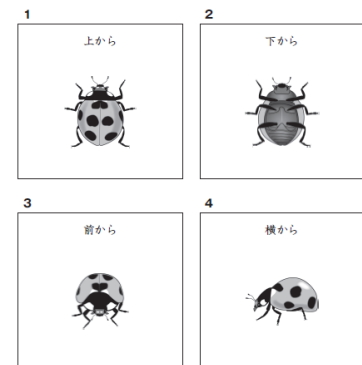
<問題の概要>

- ・昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ。

（正答 2）

<出題の趣旨>

- ・昆虫の体のつくりを理解しているかどうかをみる。



4 (1) 本市の正答率：78.6%（全国の正答率：82.3%）

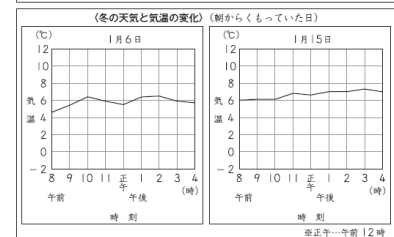
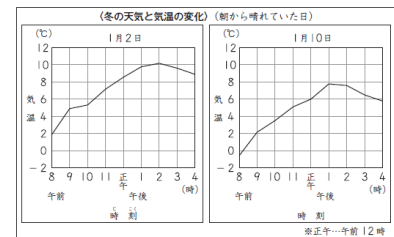
<問題の概要>

- ・冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ。

（正答 2）

<出題の趣旨>

- ・観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる。



【課題となった問題】

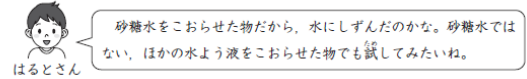
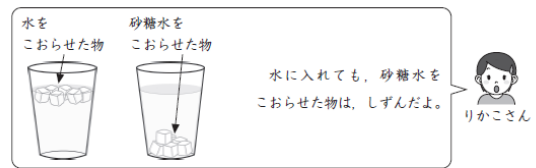
2 (4) 本市の正答率：36.7%（全国の正答率：39.3%）

<問題の概要>

- ・凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く。

（正答例）

- ・ほかの水よう液をこおらせた物は、水にしずむの
だろうか。



<出題の趣旨>

- ・自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかをみる。

<解答状況>

- 6 9.0% 水溶液を凍らせた物を対象として、液体に沈む（浮く）現象自体を問うことを示す内容で記述しているもの。例) なぜ、砂糖水をこおらせた物は、しずむのだろうか。
- 7 10.7% 水溶液を凍らせた物を対象としていない内容で記述しているもの。例) コーヒーシュガーをこおらせるとしずむのかしずまないのか。
- 99 13.2% 以外 「ほかの水溶液をこおらせた物」「水にしずむか」がない。

解答状況は上記のようになっており、自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することができていないことが考えられる。

3 (1) 本市の正答率：23.3%（全国の正答率：27.8%）

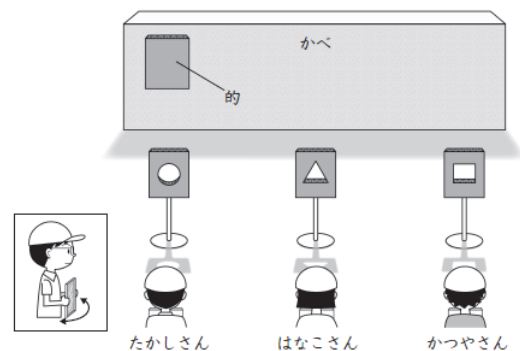
<問題の概要>

- ・光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ。

（正答 3）

<出題の趣旨>

- ・日光は直進することを理解しているかどうかをみる。



<解答状況>

- 1. たかしさん 17.0% 2. はなこさん 49.0%
- 3. かつやさん 23.3% 4. 全員 10.7%

2. の解答が49%あり、設問の「図の位置で、鏡の向きを変え、日光をはね返し、的にあてる」を、「それぞれの前の段ボールの穴を通して的にあてる」と読み間違えていると考えられる。

3 (4) 本市の正答率：40.0%（全国の正答率：35.1%）

<問題の概要>

・問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く

（正答例）①～④，①②④，①③④

・黒色のかんの水の温度は、40分後には32℃で、ほかの色のかんの水の温度よりも高いから。

- ① 「黒色のかん」（缶の色）
- ② 「40分後には」「最後には」（時間）
- ③ 「32℃」（缶の水の温度）
- ④ 「ほかの色のかんの水よりも高い」「一番水の温度が高い」（缶の水の温度を比較する）

かんの色 \ 時間	0分	20分後	40分後
黒	24℃	28℃	32℃
赤	24℃	27℃	29℃
青	24℃	27℃	30℃
白	24℃	25℃	26℃



【問題】に対するまとめは、「はね返した日光を水の入ったかんにあてると、黒色のかんの水の温度が最も高くなる。」といえる。

<出題の趣旨>

・実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかをみる。

<解答状況>

- 6①④ 20.0% 実験結果を事実として分析して、解釈し、具体的な数値などを根拠として記述していないもの。例) 黒色のかんが、ほかの色のかんよりも高いから。
- 10 17.3% 結果を用いず、原因を示す内容で記述しているもの。例) 黒は光を吸収し、熱をもつから。

解答状況は上記のようになっており、実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することができていないことが考えられる。

【課題等 ○…できている点 ●…課題のある点】

- ナナホシテントウに関する問題を解決するために必要な観察の視点をもとに、解決の道筋を構想することはできている。
- 昆虫の体のつくりを理解している。
- 天気と気温の変化を観察した結果を、分析し、解釈し、問題に正対した結論を導きだすことはできている。
- 砂糖水を凍らせた物が水に沈んだという情報を、自分や他者の気づきをもとに分析して、解釈し、適切な問題を見だし記述することに課題がある。
- 日光が直進するといった光の性質について理解することに課題がある。
- 缶の色と水の温度変化との関係についての実験で得た結果を、分析して、解釈し、具体的な数値や分析した内容に基づいて、結論の根拠を記述することに課題がある。

【課題となった内容に対する今後の取組み方針】

◇自然の事物・現象に働きかけて得た事実について、自分や他者の気づきを基に分析して、解釈し、問題を見いだすことができるようにする。

・自然の事物・現象に働きかけて得た事実について、自分や他者の気づきを基に分析して、解釈し、問題を見いだすことができるようにするためには、事実を比較し、差異点や共通点を捉えることができるようにすることが重要である。

- ・指導にあたっては、自然の事物・現象に働きかけて得た事実について話し合う中で、自分や他者の気づきを捉え、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす場面を設定することが大切である。例えば、空気の温度による体積の変化について学習した後、「空気は押し縮められるけれど、水は押し縮められなかったように、空気と水の性質は違うのかな」、「空気の温度と体積の関係が分かったけれど、水はどんなのかな」、などと調べたいことについて話し合う中で、「水は空気と同じように、温度を変えると体積は変わるのだろうか」といった問題を見いだす学習活動が考えられる。

◇知識を相互に関連付けて、より深く理解できるようにする。

- ・知識をより深く理解できるようにするためには、主体的な問題解決を通して知識を習得できるようにすることや、習得した知識を実際の自然の事物・現象と関連付けて説明できるようにすることが重要である。
- ・指導にあたっては、例えば、光の進み方に関する問題について、はね返した日光を地面に当てたり、はね返した日光の間に紙を入れたりするなどして、主体的に問題解決をする中で、はね返した日光が直進することを捉え、本設問のような場면을説明する学習活動が考えられる。

◇観察、実験などで得た結果について分析して、解釈し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにする。

- ・観察、実験などで得た結果について分析して、解釈し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにするためには、結果を事実として分析して、解釈し、それを結論の根拠として表現できるようにすることが重要である。
- ・指導にあたっては、結果の具体的な数値や、それを分析した内容などを根拠として表現する場面を設定することが大切である。例えば、問題に対するまとめを行う際に、結果を具体的な数値として学級内で共有し、何を結論の根拠としているのかを明らかにし、より妥当な考えをつくりだす学習活動が考えられる。その際、結果を基に結論の根拠を記述することが難しい場合には、結論の根拠になる結果の記述例を示し、適切なものを選ぶことができるようにすることも考えられる。

4 中学校 国語

【よくできていた問題】

2 二① 本市の正答率：83.4%（全国の正答率：82.1%）

② 本市の正答率：75.9%（全国の正答率：80.5%）

<問題の概要>

・漢字を書く問題。（正答 ①除（く） ②喜（んで））

<出題の趣旨>

・文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。

3 二 本市の正答率：78.6%（全国の正答率：84.0%）

<問題の概要>

・「途方に暮れる」という語句の意味を選択する問題。

（正答 1）

<出題の趣旨>

・事象や行為，心情を表す語句について理解しているかどうかをみる。

4 二 本市の正答率：85.3%（全国の正答率：90.1%）

<問題の概要>

・半紙に行書で書かれた「夢と希望」について、「漢字のバランスが悪い」という指摘の具体的な内容について，適切なものを選択する問題。

（正答 4）

<出題の趣旨>

・漢字の行書の読みやすい書き方について理解しているかどうかをみる。

【課題となった問題】

1 三 本市の正答率：42.9%（全国の正答率：51.8%）

＜問題の概要＞

- ・右のとおり。

（正答例）

- ・「オンラインであっても、相手が話したことに相づちを打ったり、相手の話を受けてさらに質問したりするように意識することが大事だったのです」という部分が一番伝えたいことなので、他の部分より大きな声で話す。
- ・「やりとりをスムーズに行いにくいという面もある」の部分の印象を強めるために、聞いている人たちを見渡しながらか話す。

＜出題の趣旨＞

- ・自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことができるかどうかをみる。

＜解答状況＞

- ・無回答が多い。（19.8%）

三 「二人の会話の一部」に「線部③」他の部分も話し方を工夫してみます。」とありますが、あなたならどの部分をどのように工夫して話しますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。
なお、読戻して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 「山口さんのスピーチ」のどの部分をどのように工夫して話すのかについて、言葉の抑揚や強調、間の取り方などに着目して具体的に書くこと。

条件2 条件1のように話す意図を書くこと。

2 三 本市の正答率：44.2%（全国の正答率：46.5%）

＜問題の概要＞

- ・資料【農林水産省のウェブページにある資料の一部】から必要な情報を引用し、「例えば、」に続くように、意見文を書き直す問題。

（正答例）

- ・（例えば、）農林水産省のウェブページにある資料には、作業の自動化以外に「情報共有の簡易化」と「データの活用」が示されている。

＜出題の趣旨＞

- ・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる。

＜解答状況＞

- ・条件1の引用する部分をかきかっこ（「 」）でくくって書くことができている解答が目立った。（35.9%）

【農林水産省のウェブページにある資料の一部】

スマート農業について

「農業」×「先端技術」＝「スマート農業」

「スマート農業」とは、「ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用する農業」のこと。
 ▶「生産現場の課題を先端技術で解決する！農業分野におけるSociety5.0[※]の実現」
※Society5.0：政府が提唱する、テクノロジーが進化した未来社会の姿

スマート農業の効果

- ① 作業の自動化
ロボットトラクタ、スマホで操作する水田の水管理システムなどの活用により、作業を自動化し人手を省くことが可能に
- ② 情報共有の簡易化
位置情報と連動した経営管理アプリの活用により、作業の記録をデジタル化・自動化し、熟練者でなくても生産活動の主体になることが可能に
- ③ データの活用
ドローン・衛星によるセンシングデータや気象データのAI解析により、農作物の生育や病虫害を予測し、高度な農業経営が可能に

（農林水産省ウェブページによる。）

三 小林さんは、上野さんと中村さんからの「コメントの一部」を踏まえて、で開かれた「スマート農業には、作業を自動化すること以外の効果もあるようだ。」のすぐあとに、スマート農業の効果を書き加えることにしました。あなたならどのように書きますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読戻して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 「農林水産省のウェブページにある資料の一部」から必要な情報を引用して書くこと。引用する部分は、かきかっこ（「 」）でくくることが可能。

条件2 「例えば、」に続けて書くこと。

3 一 本市の正答率：48.5%（全国の正答率：52.5%）

<問題の概要>

- ・「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現技法の名称を答え、それと同じ表現技法が用いられているものを選択肢から選ぶ問題。

（正答）比喩（比ゆ），3「猫のように素早く手を出し」

<出題の趣旨>

- ・表現の技法について理解しているかどうかをみる。

<解答状況>

- ・設問と同じ表現技法が用いられている表現は選択できているものの、表現技法の「比喩」が書けなかった解答が多かった。（35.9%）

4 一 本市の正答率：33.2%（全国の正答率：39.4%）

<問題の概要>

- ・行書の特徴が表れている部分とその特徴を説明する内容が合致しているものを選ぶ問題。（正答 1）

<出題の趣旨>

- ・行書の特徴を理解しているかどうかをみる。

<解答状況>

- ・「望」の1～3画目の特徴は「点画を連続して書くこと」だが、「省略して書くこと」を選んでいる。（48.3%）



【課題等 ○…できている点 ●…課題のある点】

- 文脈に即して漢字を正しく書くことはできている。
- 文脈の中における語句の意味を理解することはできている。
- 漢字の行書の読みやすい書き方や、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方について理解することはできている。
- 意図を明確にして話し方の工夫を具体的に考えることに課題がある。
- 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことに課題がある。
- 文章の中で用いられている表現技法について理解することに課題がある。
- 行書の特徴について理解することに課題がある。

【課題となった内容に対する今後の取組み方針】

◇音声の働きや仕組みを意識しながら表現を工夫して話すことができるようにする。

- ・自分の考えが分かりやすく伝わるように話すためには、聞き手に応じた語句を選択したり、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどに注意したりするなどして、表現を工夫することが大切である。
- ・指導にあたっては、第1学年〔知識及び技能〕の(1)「ア音声の働きや仕組みについて、理解を深めること。」との関連を図り、アクセント、イントネーション、プロミネンス（文中のある語を強調して発音すること）などの音声的特質が多様な声を作り出し、話したり聞いたりする活動に影響していることが認識できるように、実際に声に出しながら工夫を考えたり効果を確認したりすることが重要である。例えば、ICT機器を活用してスピーチの様子を動画で記録し、話し方を振り返ったり、工夫したことの効果を確認したりなどの学習活動が考えられる。その際、聞き手の興味・関心、情報量などを考慮しながら話す内容や話し方を検討したり、なぜそのように表現を工夫したのか、その意図を明確にして工夫したことの効果を確認したりする場面を設定することも考えられる。

◇考えの根拠が明確になるように情報を引用して書くことができるようにする。

- ・意見文を書く際には、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にすることが大切である。そのためには、まず、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認することが必要であり、その上で、自分の思いや考えを繰り返すだけでなく、根拠を文章の中に記述する必要があることを理解して書くことが重要となる。根拠を記述するに当たっては、根拠となる複数の事例や専門的な立場からの知見を引用することなどが考えられる。
- ・指導にあたっては、例えば、第1学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」の(2)「ア本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。」などとの関連を図り、資料から必要な部分を引用して自分の考えを伝える文章を書き、互いに読み合うなどの学習活動を行う。その際、第1学年〔知識及び技能〕の(2)「イ比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。」との関連を図り、引用の仕方について理解を深めるように指導することが有効である。

◇表現の技法を理解し、表現の仕方や効果の違いについて考えることができるようにする。

- ・ 文学的な文章を読む際には、文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考えることが大切である。表現の効果については、表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えることが重要である。その際、描写の仕方や表現の技法などに着目することが考えられる。
- ・ 指導にあたっては、小学校での学習を踏まえ、「比喩」、「反復」、「倒置」、「体言止め」などの名称で呼ばれている表現の技法をその意味や用法と結び付けて理解し、話や文章の中で使うことが必要である。また、直喩や隠喩、擬人法など、比喩の種類について整理して理解することも大切である。例えば、表現の技法が用いられている文を、表現の技法を使わない文に書き換え、両者を比較することを通して、表現の技法の効果を確認する学習活動などを行う。また、話や文章の中で比喩が用いられているところを指摘し、比喩の種類ごとに分類して表現の仕方や効果の違いについて考えることも効果的である。

◇楷書の学習を踏まえ、行書の特徴を理解して書くことができるようにする。

- ・ 直線的な点画で構成されている漢字を行書で書く際には、点や画の形が丸みを帯びる場合があること、点や画の方向及び止め・はね・払いの形が変わる場合があること、点や画が連続したり省略されたりする場合があること、筆順が変わる場合があることなどといった行書の特徴を理解して書く必要がある。
- ・ 指導にあたっては、楷書で書いた漢字と比較するなど、これまで学習してきたことを踏まえて指導することが大切である。また、筆脈を意識した点画のつながりなどを身に付けさせるために、毛筆の活用に配慮する必要がある。例えば、同じ文字を楷書で書いたものと行書で書いたものとを比較したり、点画の連続や点画の省略、筆順の変化などの行書の特徴が、実際に行書で書いた文字のどの部分に表れているのかを確認したりする学習活動が考えられる。

5 中学校 数学

【よくできていた問題】

2 (2) 本市の正答率：75.8% (全国の正答率：74.5%)

<問題の概要>

- ・連立二元一次方程式 $\begin{cases} 2x + y = 1 \\ y = x + 4 \end{cases}$ を解く問題。(正答 $x = -1, y = 3$)

<出題の趣旨>

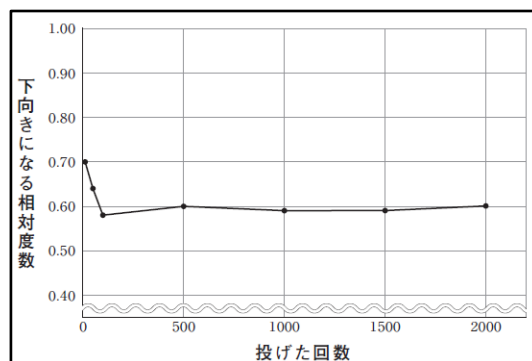
- ・簡単な連立二元一次方程式を解くことができるかどうかをみる。

5 本市の正答率：76.6% (全国の正答率：83.3%)

<問題の概要>

- ・上の表や折れ線グラフから、下向きになる確率を求める問題。(正答 イ およそ0.6)

投げた回数	下向きになった回数	下向きになる相対度数
10	7	0.70
50	32	0.64
100	58	0.58
500	299	0.60
1000	589	0.59
1500	889	0.59
2000	1190	0.60



<出題の趣旨>

- ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解しているかどうかをみる。

【課題となった問題】

1 本市の正答率：57.0%（全国の正答率：52.2%）

<問題の概要>

- ・42を素因数分解する問題。（正答 $2 \times 3 \times 7$ ）

<出題の趣旨>

- ・自然数を素数の積で表すことができるかどうかをみる。

<解答状況>

- ・中学1年で取り扱う内容であり、自然数を素因数分解することは、整数に関する性質を説明する際に必要となる基本的な知識・技能にあたるが、十分に定着していないことがわかる。難易度的には決して高くない問題であるが、正答率が60%を切っていることは大きな課題といえる。
- ・誤答で目立ったのは、「2, 3, 7」のように素因数を示すだけの解答で、「分解=積の形にする」ということが理解できていないものであった。また、無回答が11.0%もあった。

4 本市の正答率：32.3%（全国の正答率：37.9%）

<問題の概要>

- ・一次関数である関係を表している対応表ア～エのうち、変化の割合が2であるものを選ぶ問題。

ア

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-11	-7	-3	1	5	9	13	...

ウ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-2	-1	0	1	2	3	4	...

イ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-5	-3	-1	1	3	5	7	...

エ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-7	-4	-1	2	5	8	11	...

（正答 ア）

<出題の趣旨>

- ・一次関数の変化の割合の意味を理解しているかどうかをみる。

<解答状況>

- ・一次関数の変化の割合は、一次関数の変化の仕方について明確にとらえる際の「基本」となるものであるが、32%程度と極めて低い正答率であった。
- ・4つの対応表は、xの値が2ずつ増加しているところがポイントとなる。yの値の変化だけに注目すると「イ」を選んでしまうことになるが、その割合は（35.8%）と正答率を上回った。さらに「ウ」や「エ」を選択した割合も決して少なくなく、解答が4選択肢に分散していることから、変化の割合の意味が十分に理解できていないことがわかる。
- ・ア（32.3%…正答） イ（35.8%） ウ（23.4%） エ（7.8%）であった。

6 (2) 本市の正答率：38.1% (全国の正答率：48.7%)

<問題の概要>

- ・「差が4である2つの偶数の和は、4の倍数である」ことの説明を完成させる問題。
- ・解答は、説明の続きから書くことになる。

(正答例)

$$\cdot 2n+(2n+4)=4(n+1)$$

(n+1)は整数だから、4(n+1)は4の倍数である。したがって、差が4である2つの偶数の和は、4の倍数になる。

説明2

n を整数とすると、差が4である2つの偶数のうち、小さい方の偶数は $2n$ 、大きい方の偶数は $2n+4$ と表される。それらの和は、

$$2n+(2n+4)$$

=

<出題の趣旨>

- ・ 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明できるかどうかをみる。

<解答状況>

- ・直前に「同じ2つの偶数の和は、4の倍数である」ことの説明が記載されているうえに、本題は途中まで説明が書かれており、その続きを記述するという難易度的には決して高くない設問である。しかし、正答率は極めて低かった。(解答類型1,3の合計18.5%)
- ・誤答で目立ったのは、「 $2n+(2n+4)=4(n+1)$ 」または「 $2n+(2n+4)=4n+4$ 」とできていない解答である。また、正答であるものの、「 $(n+1)$ は整数だから」と述べてない解答や、 $4n+4$ に対し、「 $4n$ と4がそれぞれ4の倍数だからその和も4の倍数である。」とすべきところを、「 $4n$ 、4は4の倍数だから」とした解答など、不十分な記述が目立った。
- ・解答類型99が27.7%、無回答が22.8%と高い割合であった。

6 (3) 本市の正答率：28.2% (全国の正答率：37.6%)

<問題の概要>

- ・差が4である2つの偶数のほかに、どのような2つの偶数のとき、その和が4の倍数になるかを「～は、…になる。」という形で答える問題。

(正答例 差が4の倍数である2つの偶数の和は、4の倍数になる。)

<出題の趣旨>

- ・ 結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見出し、説明できるかどうかをみる。

<解答状況>

- ・前提として明示しなければならない2つの偶数の条件が示されなかったり、示した条件が誤っていたりする場合や、出題の意図が理解できていないと思われる解答がほとんどであった。

(誤答例)「差が2である2つの偶数は、4の倍数になる。」

「差が2である2つの偶数の積は、4の倍数になる。」

「差が4の倍数である2つの偶数は、4の倍数になる。」

- ・解答類型99が38.4%、無回答が30.9%と高い割合であった。

7 (1) 本市の正答率：46.1%（全国の正答率：44.0%）

<問題の概要>

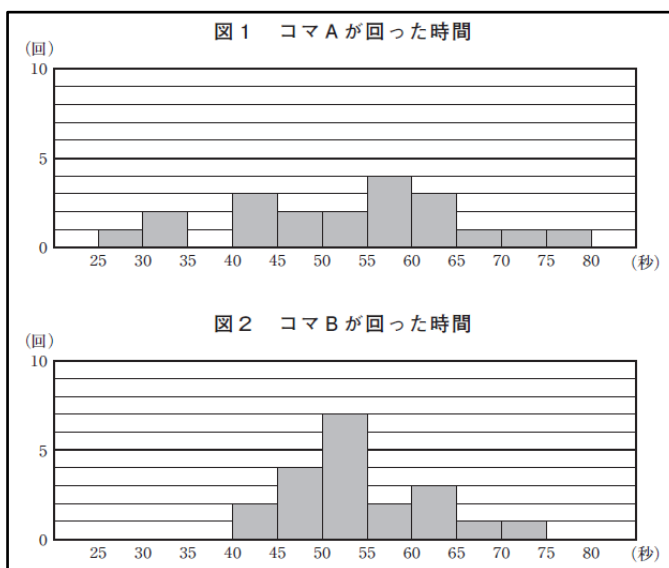
- ・2つのコマA,Bのうち、より長時間回り
 そうなコマを選び、その理由を2つのヒ
 ストグラムの特徴を比較して説明する
 問題。

(正答例1：コマAを選択)

- ・コマAの回った時間の方がコマBの回
 った時間より55秒以上の階級の度数
 の合計が大きいから。

(正答例2：コマBを選択)

- ・コマBの回った時間の方がコマAの回
 った時間より最小値を含む階級の中
 央の値が大きいから。



- ・この問題は、コマA,Bのどちらのコマを選んでも、選んだ（判断の）理由が数学的な表現を用い
 て正しく説明されていれば正答となるものである。

<出題の趣旨>

- ・データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうか
 をみる。

<解答状況>

- ・誤答のうち、「Bのコマは安定している。」（解答類型21）が最も割合が高く、26.1%であった。
- ・ほとんどの生徒は、このような類の問題にであったことがないものと思われる。

8 (2) 本市の正答率：36.6%（全国の正答率：38.4%）

<問題の概要>

- ・二酸化炭素削減量の合計の記録のグラフを活用し、
 目標の300 kg削減を達成できるのは何日目かを求
 める方法を説明する問題。

(正答例)

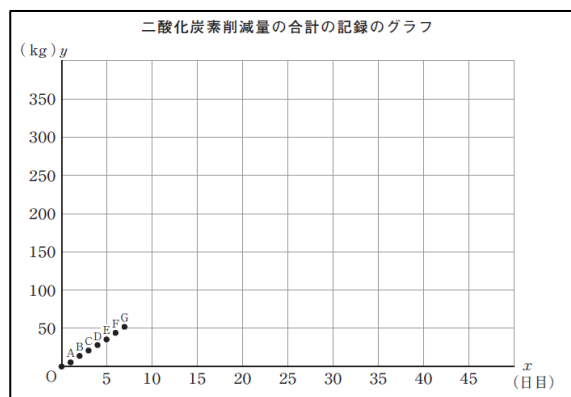
- ・原点0を通る直線のグラフをかき、 $y = 300$ のと
 きのx座標を読む

<出題の趣旨>

- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的
 に説明することができるかどうかをみる。

<解答状況>

- ・説明の方法としては、①グラフをかいて説明する方法、②一次関数の式を求めて説明する方法、
 ③割合（表や数値）を求めて説明する方法の3通りが考えられるが、多くの生徒は③の方法を
 選択した。しかし、数学的に適切な表現ができていなかったり、説明ではなく解を求めるだけ
 に留まっていたりする解答が多かった。
- ・無回答が27.7%と高い割合だった。



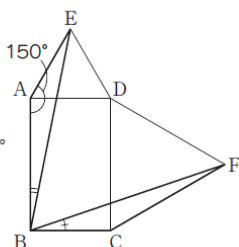
9 (2) 本市の正答率：7.9%（全国の正答率：12.5%）

<問題の概要>

- ・ $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることを証明する問題。

琴音さんの考え

- ① $\angle EBF$ について、
 $\angle ABC = 90^\circ$ より、
 $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ がいえれば、
 $\angle EBF = 90^\circ - 30^\circ$ となり、
 $\angle EBF$ が 60° になることがいえる。
- ② $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ になることは、
 $\triangle ABE \equiv \triangle CFB$ からわかる等しい角と、
 $\angle EAB = 150^\circ$ を用いて示すことができる。



説明

$\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ になることが示せたので、
 $\angle EBF = 90^\circ - (\angle ABE + \angle CBF)$ より、
 $\angle EBF = 90^\circ - 30^\circ = 60^\circ$ になる。

- ・ オートドックスな証明問題（例えば、三角形の合同の証明）ではなく、問題のもととなる長方形 ABCD の辺の長さを変化させても、 $\angle EBF$ の大きさが変わらないということを証明する問題である。

(正答例)

- ・ $\triangle ABE \equiv \triangle CFB$ より、 $\angle AEB = \angle CBF$
 $\angle ABE + \angle AEB = 30^\circ$ より $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ が述べられている証明

<出題の趣旨>

- ・ 三角形をはじめとする図形の基本的な性質などを活用し、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる。

<解答状況>

- ・ この問題は、2つの合同な三角形の性質や図形の基本的な性質（三角形の内角の和は 180 度であることなど）を根拠として、新たな事柄が成り立つことを証明する問題である。そのため、証明問題としての難易度は高く、満足できる解答は非常に少なかった。
- ・ 証明の中で欠かせない要素（ $\angle AEB = \angle CBF$, $\angle ABE + \angle AEB = 30^\circ$, $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ ）のいずれかが不足する解答がほとんどであった。
- ・ 解答類型 99 が 36.0% 、無回答が 35.2% と極めて高い割合であった。

【課題等 ○…できている点 ●…課題のある点】

- 簡単な連立方程式を解くことはできている。
- 多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解することはできている。
- 自然数を素数の積で表すことに課題がある。
- 一次関数の変化の割合の意味の理解に課題がある。
- 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。
- 結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することに課題がある。
- データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに引き続き課題がある。
- 箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることに課題がある。
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに引き続き課題がある。
- 筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。

【課題となった内容に対する今後の取組み方針】

◇自然数を素数の積で表すことができるようにするとともに、素因数分解することを通して整数の性質についての理解を深めることができるようにする。

- ・整数の性質について理解を深める場面において、整数を様々な視点から捉えることができるようにするために、自然数を素数の積で表すことが重要である。そして、自然数を素因数分解することを通して、整数に対する見方をさらに広げ、整数の性質についての理解を深めることにつながる。
- ・指導にあたっては、自然数を素数の積で表すことができるようにするために、整数に対する見方を広げ、整数の性質について理解を深める活動を重視していく。その際、小学校で学んだ約数や倍数の性質を捉え直す場面を設定するとともに、各学年で学習する「数と式」等関連する単元で、繰り返し確認する場面を設定したい。

◇一次関数の変化の割合の意味を理解し、それを求めることができるようにするとともに、具体的な事象について、伴って変わる二つの数量 x 、 y の変化や対応を捉え、それらの関係を数学的に表現することができるようにする。

- ・伴って変わる二つの数量 x 、 y の変化の様子を表から読み取り、一次関数 $y = ax + b$ の変化の割合を求めることができるように指導することが大切である。その際、 x 、 y の増加量やその割合を調べる活動を通して、変化の割合の意味を理解できるようにすることが大切である。
- ・指導にあたっては、一次関数の特徴を見だし考察する際に、その一次関数の関係を表、式、グラフを用いて表現することができるようにしたい。本問のような問を使って授業を行う際には、伴って変わる二つの数量 x 、 y の変化の特徴を捉えるために、対応表から変化の割合を求める場面を設定することが考えられる。その際、 y の値の増え方だけに注目して求めてしまうことが考えられる。変化の割合は x の増加量に対する y の増加量の割合であり、変化の割合は x の増加量が 1 のときの y の増加量であることをしっかりと理解させる必要がある。そのためにも、関数の学習では繰り返し確認を行う必要がある。

◇事柄が成り立つ理由を、構想を立て、根拠を明確にして説明できるようにするとともに、結論が成り立つための前提を捉え、見いだした事柄を数学的に表現できるようにする。

- ・事柄が一般的に成り立つ理由を、構想を立てて説明する場面を設定し、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにできるようにしたい。そのためには、数学の事象から問題を見だし、数学的な推論などによって問題を解決し、解決の過程や結果を振り返って、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察できるようにすることが大切である。
- ・指導にあたっては、与えられた事柄や予想した事柄が成り立つかどうかを、具体例をあげて調べる活動を通して、結論が成り立つための前提を捉え、見いだした事柄を数学的に表現できるようにすることが大切である。例えば、本設問を使って授業を行う際には、「差が4である2つの偶数の和は、4の倍数になる。」ことから、他にはどのような2つの偶数であれば、その和が4の倍数となるか説明する活動を取り入れることが考えられる。その際、成り立つ事柄を予想するために、具体的な数を用いて和が4の倍数になる2つの偶数について取り上げ、その2つの偶数にどんな特徴があるのかについて話し合う場面を設定する。このように、結論が成り立つための前提を捉えることができるようにしていきたい。

◇データの分布の傾向を読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明ができるようにする。

- ・データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明することや、複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取る活動を通して、四分位範囲や箱ひげ図の必要性と意味を理解できるようにすることが大切である。
- ・指導にあたっては、日常生活や社会の事象を題材とした問題などを取り上げ、統計的に問題解決することができるように指導することが大切である。その際、問題を解決するために計画を立て、必要なデータを収集して処理し、データの分布の傾向を捉え、その結果を基に批判的に考察し判断するという一連の活動を充実させることが大切である。例えば、本問のように、コマ回し大会で使うコマを選ぶため、二つのコマのうち、より長い時間回りそうなコマを選ぶという場面において、二つのコマAとコマBが回った時間のデータを収集し、それらを整理して代表値を求めたり、ヒストグラムに表して分布の傾向を読み取ったりするなどして、二つのコマの特徴について話し合う場面を設定する。そのうえで、コマを選ぶ根拠を、最大値、最小値、範囲、累積度数などといった指標を用いて記述できるようにすることが大切である。

◇問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにするとともに、日常生活や社会の事象における問題の解決に数学を活用できるようにする。

- ・具体的な場面において、事象を理想化したり単純化したりして、日常生活や社会の事象における問題を数学の問題として捉え、数学を活用して解決できるようにすることが重要である。さらに、その解決の過程や結果を振り返り、新たな問題を見いだすなど、日常生活や社会の事象の考察や問題解決に数学を活用する態度を育成することが大切である。
- ・指導にあたっては、様々な問題を、数学を活用して解決できるようにする際に、問題解決の方法に焦点を当て、例えば、表、式、グラフなどの「用いるもの」と、それらを問題解決するためにどう用いたかといった「用い方」について考え、説明できるように指導することが大切である。その際、実際に行った解決の過程を振り返り、そのときに用いた方法について、

「用いるもの」や「用い方」のいずれか一方の説明にとどまらず、「用いるもの」とその「用い方」の両方を指摘し、的確に説明できるように指導することが大切である。例えば本設問でいえば、グラフを用いて問題を解決する場合を取り上げ、その方法について、原点 O を通る直線をかいて得られたグラフ（「用いるもの」）と、 y 座標が 300 のときの x 座標を読むこと（「用い方」）の両方を明確にし、問題解決の方法を的確に説明する活動を取り入れることが考えられる。なお、問題解決の過程を振り返る場面において、解決の見通しをもつ場面で出された「グラフを使って求める。」や、「 $y=300$ を代入する。」などという不十分な表現を取り上げて吟味し、より洗練された表現に高めていく必要がある。

◇ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それが成り立つ理由を数学的に表現することができるようにする。

- ・ある条件の下でいつでも成り立つ性質や関係を捉え、それを数学的に表現することや、観察や操作、実験などの活動を通して、図形の性質を見だし、発展的に考察することができるようにしたい。
- ・指導にあたっては、結論を導くために何が分かればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見だし、事柄が成り立つ理由を、筋道を立てて考えたりする活動を取り入れ、数学的に説明できるように指導することが大切である。

6 中学校 理科

【よくできていた問題】

1 (2) 本市の正答率：73.9% (全国の正答率：78.5%)

<問題の概要>

- ・タッチパネルの反応に水が関連しているかどうかを調べる比較実験をする場合に、使用するものを二つ選ぶ

(選択肢) ア 乾いたティッシュペーパー

イ 乾いたハンカチ

ウ 水で湿らせたティッシュペーパー

オ アルコールを含む除菌シート (正答 アとウ)

<出題の趣旨>

- ・モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる。

3 (1) 本市の正答率：76.3% (全国の正答率：80.1%)

<問題の概要>

- ・水素の正しい化学反応式を選択肢から選ぶ

(選択肢) ア $4\text{H} + 2\text{O} \rightarrow 2\text{H}_2\text{O}$

イ $\text{H}_2 + \text{O}_2 \rightarrow \text{H}_2\text{O}$

ウ $2\text{H}_2 + \text{O}_2 \rightarrow 2\text{H}_2\text{O}$

オ $\text{H}_4 + \text{O}_2 \rightarrow \text{H}_4\text{O}_2$ (正答 ウ)

<出題の趣旨>

- ・化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる。

4 (1) 本市の正答率：73.6% (全国の正答率：74.5%)

<問題の概要>

- ・ダイオウグソクムシとダンゴムシの体のつくりと働きについて、生活場所と移動の仕方を比較して記述する問題。(生活場所と移動の仕方について比較して記述する)

<出題の趣旨>

- ・節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる。

【課題となった問題】

2 (3) 本市の正答率：28.8%（全国の正答率：28.5%）

<問題の概要>

- ・飛行機雲がすぐに消える場合と長く残る場合の違いを考察する問題。考察するために、すぐに消えた日と長く残る日の地上での観察データを提示して、最も適切な判断を選択肢から選ぶ問題。
- ・提示されたデータ（地上の百葉箱のデータ）

日時	気温（℃）	湿度（%）	飛行機雲の残り方
10月1日13時	21.5	61	すぐ消えた
10月15日13時	20.3	61	長く残った

（選択肢）

- ア 観測データの気温が異なるので、「湿度は関係していない」と言える
- イ 観測データの湿度が等しいので、「湿度は関係していない」と言える
- ウ 湿度が異なる他の日を調べないと、「湿度は関係していない」とは言えない
- エ 飛行機雲の高さの湿度を調べないと、「湿度は関係していない」とは言えない

（正答 エ）

<出題趣旨>

- ・飛行機雲の残り方を科学的に探究する場面において、地球上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる。

<解答状況>

- ・誤答として最も多かったのが、イ（36.9%）であった。次にウ（22.1%）で回答がばらついていた。これらのことから、飛行機雲の発生している上空と地上との違いが整理されていないために何らかの根拠があって回答したというより、確かな根拠なく選択した可能性が高い。

<誤答の原因と対策>

- ・身近な問題や体験に基づいた思考は比較的正答率が高い（41など）のに対して、生活実感のない上空の状態や考え方についての専門的な知見が不足していると考えられる。理論的に考えればわかる問題ではあるが、実際の体験に基づかない問題や、目に見えない事象に関しては、考える時や場所が必要であると思われる。

3 (3) 本市の正答率：21.0%（全国の正答率：24.8%）

<問題の概要>

- ・水素を燃料として使用するために、水を電気分解するときにおおもに必要なエネルギーを図から選び記述する問題

（正答例）太陽の光（太陽も可）

<出題の趣旨>

- ・化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる。

<解答状況>

- ・誤答として多くあったのは誤答類型にない「酸素」という答えであった。問題文には「この《水

素を燃料として使うしくみの例》では、水を電気分解して発生させた水素を使い続けるためにおおもととして〔解答〕が必要です。」となっている。このおおもととしてという語句を読み飛ばしてしまい、「水素が使うために（燃焼させるために）何が必要か」と読み取ってしまい「酸素」と答えた生徒が多くなったと考えられる。

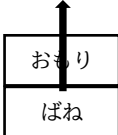
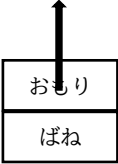
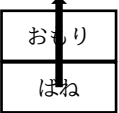

<誤答の原因と対策>

- ・この水素の利用を科学的に探究する問題の中で、この問いのみが正答率が低いことから、水素の利用に関する理解が浅いのではなく、問題文の読み込みが浅かったと思われる。問題文は「おおもととして」という語句だけで、エネルギーの流れを理解しているかどうかを問おうとしているが、問題文の読み取りミスによって正答率が大きく下がったと思われる。別の聞き方で、「水素利用をずっと行うしくみをこの図で考えていくと、どのようなエネルギーが必要ですか」というような聞き方であれば正答率は高かったと思われる。

5 (1) 本市の正答率：8.6%（全国の正答率：15.3%）

<問題の概要>

- ・ばねにのせたおもりがつりあったとき、おもりにはたらく重力とつりあう力を選び説明する問題。（選択肢）

図	ア 	イ 	ウ 	エ 
説明	カ：おもりがばねを押す力	キ：ばねがおもりを押す力	ク：おもりが床を押す力	ケ：床がおもりを支える力

（正答 アとキ）

<出題の趣旨>

- ・力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつりあう力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる。

<解答状況>

- ・<ア以外を解答>と<キと解答>しているものが66.3%を占めている。「ばねがおもりを押す（押し返す）力」ということは理解しているが、それを実際に作図すると間違えている。

<誤答の原因と対策>

- ・ばねにのせたおもりがつりあっているとき、おもりが重力に引かれる力とばねが押し返す力がつりあっているという“体験的理科知識”は持っているが、「重力は物体の中心から」「力は作用点から」という“学問的理科知識”に理解不足があったと考えられる。
- ・これらのことから、“学問的理科知識”については、それらに触れる機会（作図、問題等）を持つことが重要であると考えられる。

6 (3) 本市の正答率：32.1% (全国の正答率：34.2%)

<問題の概要>以下

・Wに当てはまる適切なものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア 北から南 イ 南から北
ウ 西から東 エ 東から西
(正答 ア)

<出題の趣旨>

・地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかをみる。

<解答状況>

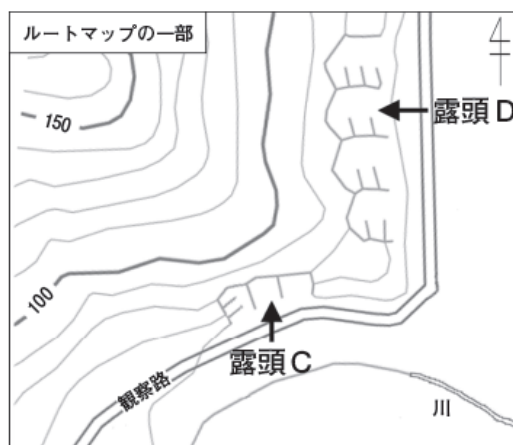
・ウまたはエと解答しているものが54.2%，イと答えているものが13.7%である。露頭Dは東側から観察しているので「東-西」方向に傾いているとは言えないが、これらを選択したものが半数以上になる。

<誤答の原因と対策>

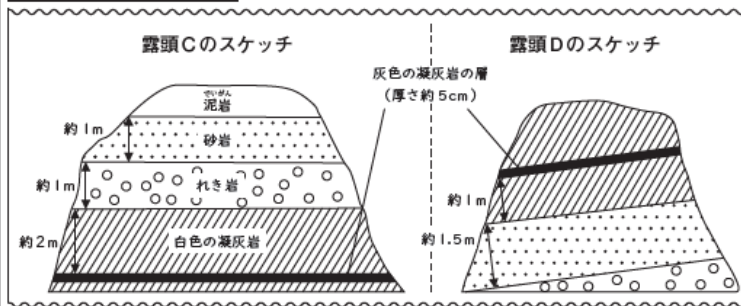
・地層の分野は、立体的に地層を把握できるかどうかと、実際のフィールドワークの体験が基盤となる。しかし、地層分野に関しては体験、フィールドワークの場は少ないと考えられる。また、立体的な地層の把握はこれまでの板書だけでは説明が困難であった。時間的には厳しいが、フィールドワークの確保または、ICTを駆使してフィールドワークを補完することと三次元の地層の把握を支援していくことが求められる。

ルートマップと露頭のスケッチから地層の傾きを考える場面

学芸員：この地域には、堆積岩が分布しています。地層の傾きについて考えましょう。



フィールドノートの一部



赤井さん：露頭をルートマップの矢印の向きから観察して、スケッチしました。観察した地層には、特徴的な灰色の凝灰岩の層がありました。

青木さん：露頭Cと露頭Dの位置関係とスケッチから、この地層は に下がるように傾いていると考えられます。

7 (1) 本市の正答率：33.2%（全国の正答率：35.9%）

<問題の概要>

- ・水が水蒸気になるときの温度変化についての考察「水が熱をうばって蒸発するため」とあるが、この仕組みと同じ現象を、ア～エまでのの中から選ぶ問題。（正答 ウ）

<出題の趣旨>

- ・液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる。

<解答状況>

- ・エ (26.4%)，ア (22.6%) という誤答状況である。熱の伝導によって温度が低下する状況や、氷水に食塩を入れて温度が下がる現象を蒸発による温度低下と同様に捉えている可能性がある。

<誤答の原因と対策>

- ・実験の体験は記憶にとどまることが多い。誤答が多かったア

やエは、小学校時代に実験や体験があり記憶に深く刻まれている可能性が高い。実験や体験は深く記憶に残るが、「なぜその事象が発生したのか」という“深い考察”が伴っておらず、“物事が変化した”という感動だけが記憶に残ってしまっていることが考えられる。

- ・実験や体験の背景にある理論や構造に関して“深い考察”に結び付けて考えさせる活動が必要であると思われる。

グループ1 水が水蒸気になるときの温度変化

アフリカの乾燥地帯の電気を使わない冷蔵庫（断面図）

湿らせた布

水を含んだ砂

水蒸気

水

水蒸気

素焼きのつぼ

素焼きのつぼには小さな穴がたくさんあり、水が表面にしみ出します。

空気が乾燥しているので、しみ出した水は、すぐに熱をうばって蒸発するため、全体が冷えます。

ア

イ

ウ

エ

かき氷をすくった金属のスプーンの温度が下がる

ラムネ菓子を食べると化学変化で口の中の温度が下がる

アルコールで手を消毒すると、手の温度が下がる

氷に食塩をかけると0℃より温度が下がる

【課題等 ○…できている点 ●…課題のある点】

- 変える条件と変えない条件を制御した実験を計画することはできており、改善の状況がみられる。
- 分子のモデルで表した図を基に、化学変化を化学反応式で表すことはできている。
- 節足動物の外部形態について調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈することはできている。
- 他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善することに課題がある。
- 力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を説明することはできているが、矢印で表すことに課題がある。
- ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈し、主として時間的・空間的視点で捉えることに課題がある。
- 状態変化に関する知識の概念的理解に課題がある。

【課題となった内容に対する今後の取組み方針】

◇考察の根拠が妥当か、多面的、総合的に検討して改善できるようにする。

- ・自然の事物・現象を科学的に探究する上で、自分や他者の考察について根拠が妥当か、多面的、総合的に検討して改善することが大切である。指導にあたっては、本問のように、他者の考察の根拠としている観測データの種類や科学的に探究する方法が妥当か検討する学習場面を設定することが考えられる。その際、用いた観測データが自然の事物・現象と対応しているか、観測データの読み取りが適切であるかなどの視点を明示することが重要である。
- ・具体的には、“感情的興味”（水素が爆発したときの音に興味をもつなど）だけで終わるのではなく、“価値的興味”（どのように爆発が起こったのかなどの知的理解）をもてるように討議の時間をもつこと。また“価値的興味”をもつための基礎的知識が定着するまで繰り返し学ぶ場を持つ必要があると思われる。また、今回は問題文の解釈について誤解して回答してしまうような問題があり、理科的な知識や考察ができていても“問題慣れ”（問題文にあわせて思考する習慣）していないと思われる問題があり、思考討論だけでなく、考察が必要な問題を読み解く国語力の醸成も必要であると思われる。

◇物体に働く重力とつり合う力を矢印で表して説明できるようにする。

- ・力の働きについて科学的に探究する上で、力は大きさや向きによって表されることや物体に働く2力のつり合いなど、目に見えない力を矢印で表して説明することは大切である。指導にあたっては、物体に力を働かせる実験を行い、一つの物体に二つの力が働いていることに気付くようにし、それらの力の大きさや向きを矢印で表して、つり合いの関係を説明する学習場面を設定することが考えられる。
- ・具体的には、力の関係性を学ぶのに理論だけで行うのではなく、日常場面（二人でバケツを持つ場合など）と照らし合わせながら学習を進めていくことを通して定着させるような工夫が必要であると思われる。

◇地層の傾きを主として時間的・空間的な視点で捉え、分析して解釈できるようにする。

- ・地層の広がり方を理解する上で、露頭のスケッチの位置関係をルートマップから把握して空

間として認識し、分析して解釈することが大切である。指導にあたっては、例えば、地層モデルや露頭の360度パノラマ画像を活用して地層を立体的に捉え、生徒が試行錯誤しながら広がり方や傾きを考える学習場面を設定することが考えられる。その際、露頭に対して自分がどの方位から見ているのかを常に意識して、地層の傾きを分析して解釈できるようにすることが重要である。

- ・具体的には、実際にフィールドワークに出るのが適切であろうがなかなかそのような時間を持つことが難しい。そのような場合に理論だけで授業を進めるのではなく、ICTを活用して”体験に準じるもの”を用意し、体験と思考を結び付けていく必要があると思われる。

◇状態変化に関する知識を身近な現象で活用できる程度に概念等を理解できるようにする。

- ・状態変化に関する知識を身に付けるだけでなく、身近な現象で活用できる程度に概念等を理解することは大切である。指導にあたっては、状態変化に関する知識と身近な現象を関連付けて探究する学習場面を繰り返し設定することが考えられる。その際、乾湿計の乾球と湿球に温度差が生じる現象やアルコール消毒で手が冷たくなる現象など、温度が下がる現象と状態変化の知識を関連付けながら概念等を理解することが考えられる。
- ・具体的には、学習を行う場合にも個々の理論をそれぞれに学ぶのではなく、例えば気象であれば、現象と理論を結び付けたり、現象を自ら分析し説明したりするような総合的に学び発表する場をもつ必要があると思われる。

II 児童生徒質問紙調査の回答状況より

(いなべ市小中一貫教育成果指標に係る児童生徒質問紙の回答状況)

児童・生徒質問紙調査の中から、いなべ市小中一貫教育成果指標に係る項目について、その回答状況を三重県及び全国の結果と比較してまとめました。

<小学校> 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合

1 勉強が好きな子

質問項目	いなべ市	三重県との差	全国との差
国語の勉強は好きですか	53.3	-4.2	-5.9
算数の勉強は好きですか	63.8	+0.6	+1.3

2 主体的に学ぶ子

質問項目	いなべ市	三重県との差	全国との差
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	87.4	+9.8	+10.1
授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	78.6	+8.3	+6.4
授業では、自分の思いや考えをもとに新しいものをつくりだしたりする活動を行っていましたか	76.4	+11.1	+8.0
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	73.4	+3.9	+2.3

3 自分のよいところを伸ばし、挑戦する子

質問項目	いなべ市	三重県との差	全国との差
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	81.6	+8.8	+9.1
自分には、よいところがあると思いますか	83.5	+6.1	+4.2

4 健康で思いやりのある子

質問項目	いなべ市	三重県との差	全国との差
人が困っているときは、進んで助けていますか	91.7	+1.8	+2.8
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	95.6	-1.5	+1.2
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.4	+1.5	+1.3

5 友だちと協力し，達成感を味わえる子

質問項目	いなべ市	三重県との差	全国との差
友達と協力するのは楽しい	96.7	+2.6	+2.7
学級では，学級生活をよりよくするために学級会で話し合い，互いの意見のよさを生かしながら解決方法を決めていますか	87.3	+18.5	+13.8

6 ふるさと“いなべ”を愛する子

質問項目	いなべ市	三重県との差	全国との差
今住んでいる地域の行事に参加していますか	75.6	+17.3	+22.9
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	55.8	+5.6	+4.5

7 将来の夢や目標に向かって努力する子

質問項目	いなべ市	三重県との差	全国との差
将来の夢や目標を持っていますか	81.3	+3.0	+1.5

【まとめ】

- ほぼすべての項目について，肯定的な回答率が高い値となっており，全国や三重県と比べても高くなっている。特に「学級では，学級生活をよりよくするために学級会で話し合い，互いの意見のよさを生かしながら解決方法を決めていますか」「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の回答率が，全国や三重県より 10 ポイント以上高くなっている。これら傾向は，過去の調査も同様であることから，いなべ市内の教育活動の一つの大きな成果といえる。
- 課題としては，「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」に対する肯定的な回答率について，これまでの経年変化をみると上昇傾向にあるものの，決して高い値とは言えない。今後，予測不能な社会の中を生きていく子どもたちにとって，重要な事柄であると考えことから，意識的な取組を行っていく必要がある。
- 本市の大きな課題は，「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答率が，全国や三重県より低いことであり，過去の調査でも同様の結果となっている。学力調査の結果との相関関係についてははっきりと断言はできないが，少なくともこれまでの傾向から考えればあると考えられる。今後も，小学校の低学年の段階から「国語が好きになる（国語を好きにさせる）」具体的な取組を継続して行っていくことで，改善を図っていきたい。

<中学校>

1 勉強が好き な子 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合

質問項目	いなべ市	三重県との差	全国との差
国語の勉強は好きですか	52.7	-8.5	-9.2
数学の勉強は好きですか	66.6	+5.5	+8.5

2 主体的に学ぶ子

質問項目	いなべ市	三重県との差	全国との差
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	81.8	-1.3	+2.6
授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	66.9	-1.6	-0.5
授業では、自分の思いや考えをもとに新しいものをつくりだしたりする活動を行っていましたか	65.8	+0.2	-1.4
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	61.2	-0.9	+2.7

3 自分のよいところを伸ばし、挑戦する子

質問項目	いなべ市	三重県との差	全国との差
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	75.7	+7.7	+8.6
自分には、よいところがあると思いますか	81.0	+1.3	+2.5

4 健康で思いやりのある子

質問項目	いなべ市	三重県との差	全国との差
人が困っているときは、進んで助けていますか	92.0	+1.9	+3.6
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	98.7	+1.8	+2.3
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	98.2	+2.5	+3.2

5 友だちと協力し，達成感を味わえる子

質問項目	いなべ市	三重県との差	全国との差
友達と協力するのは楽しい	95.8	+1.0	+2.1
学級では，学級生活をよりよくするために学級会で話し合い，互いの意見のよさを生かしながら解決方法を決めていますか	82.6	+4.7	+5.8

6 ふるさと“いなべ”を愛する子

質問項目	いなべ市	三重県との差	全国との差
今住んでいる地域の行事に参加していますか	61.5	+14.7	+21.5
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	40.4	-3.0	-0.3

7 将来の夢や目標に向かって努力する子

質問項目	いなべ市	三重県との差	全国との差
将来の夢や目標を持っていますか	68.7	+0.1	+1.4

【まとめ】

- 多くの項目について，肯定的な回答率が全国や三重県を上回っているが，昨年度と比較すると低下した項目が複数あった。特に，「2 主体的に学ぶ子」に関する項目について低下したことが懸念材料である。なお，全体的に数値が3年前の小学校6年生時の結果より低くなったが，これは全国的な傾向でもある。
- 「3 自分のよいところを伸ばし，挑戦する子」「4 健康で思いやりのある子」「5 友だちと協力し，達成感を味わえる子」に関する項目については，全国や三重県と比較しても高い値となっており，義務教育の9年間の積み重ねの結果であると捉えたい。また，昨年度，全国や三重県を下回っていた項目「自分には，よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」についても改善した。先行き不透明な世の中であることに加え，新型コロナウイルス感染症の影響もあり，教育活動の実施に様々な試行錯誤を要する状況であるが，子どもたちが自信を深め，将来の夢や目標を持つことができるような教育活動を行っていききたい。
- 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」と肯定的に答えた割合が昨年より低くなった。この項目については過去の調査でも，肯定的な回答が特に低い項目である。今後は社会科や総合的な学習の時間等で，今以上に地域社会に目を向ける活動を取り入れていきたい。

Ⅲ 学校質問紙調査（小学校）の回答状況より

学校質問紙調査の結果から、全国の回答状況と比較して特に差の大きかった項目についてまとめました。今後は、強みはさらに伸ばし、弱みを少しでも克服するための取組を行っていきます。

【強み】 80%以上の学校が肯定的に回答し、全国との差が+10ポイント以上となった質問項目

N0	質問事項	いなべ市	全国差
7	調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	100	+12.8
23	児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	100	+12.8
24	児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	90.9	+15.8
26	学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	90.9	+10.0
56	教員が大型提示装置等の ICT 機器を活用した授業を 1 クラスあたりどの程度行いましたか。(ほぼ毎日活用した割合)	100	+32.8
58	コンピュータなどの ICT 機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフがいるなど技術的にサポートできる体制がありますか	100	+30.7
69	前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	90.9	+38.2
70	前年度までに、近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか	100	+51.8
75	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、学校の美化、登下校の見守り、放課後支援など、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか	81.8	+11.0

【弱み】 肯定的に回答した学校が 80%未満で、全国との差が-10ポイント以上となった質問項目

N0	質問事項	いなべ市	全国差
12	教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか（月に数回程度以上行った）	54.6	-18.6
13	教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決にあたることを行いましたか（月に数回程度以上行った）	72.8	-10.9
20	児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか	63.7	-19.9
21	個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか	63.7	-12.3
31	児童に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	72.8	-10.6
46	児童に対する算数の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	72.8	-11.5
65	教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどの ICT 機器を活用していますか	18.2	-32.1

IV いなべ市の取組について

1 小中一貫教育の推進

義務教育の9年間の学びと育ちを見据え、発達段階や教育上の課題に応じた、一貫性のある系統的かつ継続的な学習指導や生徒指導を、小中一貫教育を手法として進めていきます。

2 NRTの実施

毎年4月、小2年生～中3年生を対象に、NRT（標準学力検査）を実施しています。前学年の学習内容における学力の定着状況を明らかにし、児童生徒の「強み」「弱み」に基づいた効果的な学習指導の在り方を検証していきます。

3 指導主事等による学校訪問

教職員の指導力向上を図るため、指導主事や学力向上特別指導員を派遣し、授業改善のための指導・助言を行います。

4 教職員の研修

いなべ市教育研究所による研修講座を充実させ、教員の指導力等の向上に努めるとともに、いなべ市教育研究会と連携して研究・研修活動の充実を図っていきます。

V 各学校における学力向上の取組について

1 学級集団づくり

自尊感情や学習意欲の向上を図るため、その土台となる学級集団づくりに取り組みます。特に、年間2回実施しているQ-U（学級満足度調査）を活用し、一人ひとりの規範意識を高めるとともに、友だちに寄り添い、互いに高まり合えるいじめのない学級集団づくりを進めていきます。

2 授業改善

授業改善を主とした「授業づくり研修」を行い、指導の在り方を検討したり、新しい授業方法に挑戦したりしていきます。研修を通じて学んだことは、それぞれの教職員の指導に活かしていきます。

3 NRT、全国学力・学習状況調査等の分析

NRTや、全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの結果分析により、児童生徒の学力状況をできるだけ細かく分析し、明らかになった課題を克服するため日々の授業改善に努めます。

4 生活習慣づくり

児童生徒の健やかな成長のため、規則正しい生活習慣づくりに努めます。特に、メディアとの接触や、携帯・スマートフォンの使用における家庭でのルールづくりにおいて、学校と保護者、地域が連携し、さまざまな取組を実施していきます。